6月24日「地域活性化の推進に関する関係閣僚等会合」にて
中山京丹後市長、井上宮津市長から報告と支援要請

― 京丹後市及び宮津市の「地域活性化モデルケース」。全国から6提案のみ。―

正面：
甘利経済財政政策担当大臣兼経済再生担当大臣（左端）
菅内閣官房長官（左２人目）
新藤地域活性化担当大臣兼総務大臣（左３人目）
世耕弘成内閣官房副長官（右端）
太田昭宏国土交通大臣（右２人目）

首相官邸にて事例報告する中山泰京丹後市長（手前中央）と井上正嗣宮津市長（手前右側）

【提案者】京丹後市、宮津市、京都府、丹後海陸交通(株)、北近畿タンゴ鉄道(株)、丹後織物工業組合、(特非)京都発・竹・流域環境ネット、(有)森林資源、宮津竹林の里保全の会、(株)タケックス・ラボ、大和リゾート(株)、オリカ(株)、サンコール(株)、積水化学工業(株)、(特非)地球デザインスクール、宮津バイオマス・エネルギー事業地域協議会

■京丹後市：「グリーン・ウエルネス新公共交通体系の構築とそれを核とした環境調和・健康未来創造スマートコミュニティの実現」

■宮 津 市：「竹を資源として活用した里山経済圏形成モデルプロジェクト」

※ 1～3、5～7：京丹後市提案関係 、4：宮津市提案関係

提案の概要

持続発展する地域づくり（地場産業振興と大学連携）

持続可能な地域づくり

1 グリーン・ウエルネス新公共交通体系の実現

周遊等の活性化

200円バス

ますます充実

鉄道 上下分離導入

新会社「ウィラー」による新たな経営と連携スタート

EVタクシーの積極導入

買い物難民・通院対策含む

高速道路網の拡充

グリーンエネルギーの充填システムの構築

「道路も鉄道も」の好循環を実現

移動・交流の活性化

2 地域包括ケアの推進

福祉と健康未来社会の創造

外出支援
ウエルネス向上

健康長寿
介護予防　生活支援

・ウォーキング総合促進システム（ポイント制度導入）

・買い物難民の解消、生活　必需品の配送、見守り代行システム等の検討・推進

等

3 観光活性化

観光プログラム開発販売強化

海の京都

流通・消費増

特A評価米等

竹工芸品

4 竹資源の活用と竹産業の創出

竹資源管理センター

竹林面積 宮津市 617ha

金融機関と連携

- 衛生製剤
- 堆肥
- バイオプラスチック
- チップボイラー

竹繊維の活用検討

5 伝統産業の再生と未来型グリーン産業の創造

新シルク産業の創造

丹後ちりめん再生⇒

①超高品質化・・スパイダーシルクの研究
②生産性の向上・・周年等飼育

大学連携による産業振興

6 大学連携

同志社大学など

域学連携参加大学

京丹後夢まち創り大学

研究開発

京都工芸繊維大学

京丹後キャンパス

信州大学

7 再生可能エネルギーの全面展開

生ごみバイオガス発電

太陽光（ソーラー）発電

木質チップ化、竹チップ化

エコエネルギーセンター

発電	蓄電
排熱	液肥

住民協働

太陽光パネル設置

生ごみ収集

竹提供

8 情報通信技術 最先端の ICT タウン化

＜補足＞“絹のふるさと京丹後”関係　～絹のふるさと京丹後。地場産業の継承と新産業の創出に向けて！～

地域資源を活用した新シルク産業創造・産官学連携体制の構築と推進

（連携団体：京都府、国内繊維系3大学（京都工芸繊維大学・信州大学・福井大学）、市内民間事業者等　　協力団体：シルクのまちづくり市区町村協議会）

連携協力体制

全国26市区町村が連携
シルクのまちづくり市区町村協議会

京都府（包括協定）

京丹後市（包括協定）

京都工芸繊維大学 京丹後キャンパス

京都工芸繊維大学 KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

指導・協力

信州大学

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」繊維系大学連合による次世代繊維・ファイバー工学分野の人材育成の実施中

国立大学法人 福井大学 UNIVERSITY OF FUKUI

研究拠点を整備し、新たな養蚕システムを構築・展開

コア技術

「遺伝子組換蚕の研究」

「無菌・無人・周年・人工飼料による養蚕システムの実践」

遺伝子組替蚕の研究

スパイダーシルクは羽毛より軽く、鋼より強い。カイコに蜘蛛糸遺伝子を導入することによって作ることが可能。その他にも、紫外線吸収力の高いものなど、シルクが持つ特定の機能を高めたシルクの生産に向けた研究を行う。

拠点の確保

稼働主体

再配置による空き校舎活用

養蚕事業者（桑園所有）

無菌・無人・周年・人工飼料による養蚕システムの実践

蚕20万頭

1000頭／畳
1畳のパレット×200枚

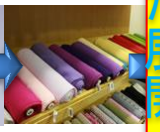
20枚を2m程度の高さに重ねて上族＝10畳のスペースで充足

繭約350kg

※卵から繭になるには約25日。年間通じて稼働するとすれば、10畳スペースが 30室あれば周年飼育可能。生産性が大幅に向上。

製糸業（自動繰糸機1セット）

生糸生産
（60kg／1日）


国産繭による丹後ちりめん生産の展開（60反／1日）

新事業への展開

持続した展開

新シルク産業分野

- **新衣料分野**（スパイダーシルク活用による靴下・ストッキング、紫外線防御機能活用生活用品等）
- **新養蚕・桑農業分野**（新機能絹生産等）
- **健康産業分野**（セリシン、フィブロイン活用による健康食品等）
- **医療産業分野**（医薬品・検査薬等原料用組換たんぱく質等）
- **観光産業分野**（新養蚕産業活用観光等）

既存産業分野

既存養蚕業も元気に！

- **養蚕業**（養蚕業の継承・展開）

技術を未来へ継承！

- **織物業**（和文化の継承・展開）

補足資料2　新シルク産業の創造関係

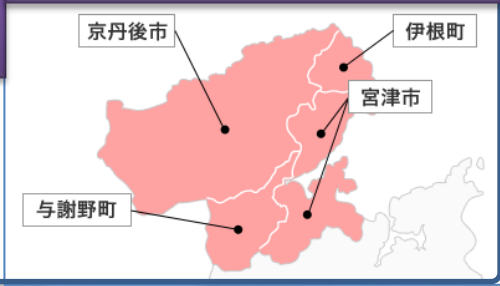
京都府京丹後市

【提案名】　絹関連産業・大学等集積・連携促進による

絹・シルクの和のちから新産業創出提案

・丹後地域（2市2町）は、わが国最大の生糸消費地・絹織物生地生産地。他方で、わが国の国産絹は、国内流通量の1%に満たない生産量となっている。
・わが国最大の生糸消費地・絹織物生地生産地において、川上から川下までの関連産業及び大学等学術研究機関の一貫した集積と連携を促進することにより、新・絹（シルク）産業の創生のためのモデルを構築する。
なお、東京五輪を控え、絹の純ジャパンブランドづくりのモデルともなりうる。

絹・シルクの和のちから新産業創出区域



現在

川上分野

【養蚕】
生産性に課題があり
国内産は壊滅的

川中分野

【織物】
コスト漸増の外国産生糸頼みで、川下からの需要も長期減少。国産生糸により川下製品の高付加価値化等が課題

川下分野

【特に健康、医療品等】
コスト面から原料として外国産繭、残糸に頼らざるを得ないが、国産繭等が安定的に入手できれば比較的高コストでも付加価値の高い最終製品づくりが可能

＜地域活性化モデル＞

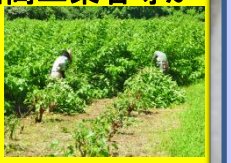
①新たな養蚕の技術開発：
高生産性＋高付加価値

無菌・無人・周年・人工飼料による養蚕システムの実践

遺伝子組替蚕の研究

＜規制改革の実現＞

①新・養蚕農業生産法人の設立（絹製品商工業者等が1/2以上の議決権取得が可能）



②養蚕農業の信用保険法の適用
③大学設置基準のキャンパス要件の緩和
等々

今後

川上分野

【養蚕】
新たな養蚕の技術導入プラス新タイプの農業法人により、「生産性向上」と「川中、川上分野と一貫して俯瞰できる効果的な農業経営」で国内産を再生

新シルク産業創出

新養蚕・桑　農業分野
（新機能絹生産等）

川中・川下分野

国内産繭、生糸を積極的に活用した、付加価値の高い各種シルク製品の生産

新シルク産業創出

新衣料分野
（ストッキング、紫外線防御機能活用生活用品等）

健康産業分野
（セリシン、フィブロイン活用による健康食品等）

医療産業分野
（医薬品・検査薬等原料用組換たんぱく質等）

観光産業分野（新養蚕産業活用観光等）

補足資料2附表　新シルク産業の創造関係

「量産型養蚕」と「高機能絹糸開発」による新シルク産業の創出スケジュール

	平成26年度	平成27～29年度	平成30年度～
実行主体	桑園事業者 周年飼育事業者 繭加工事業者（製糸業） 繭加工事業者（絹糸活用） 繭加工事業者（その他加工） （公募・参画） **研究会設立** 参加主体それぞれに取組む方向性を明確化する	**新シルク産業推進機構（仮称）設立・運営** 施設管理 研究会参加事業者がそれぞれ事業を推進。個々に事業拡大・成長を目指すとともに、市内へのシルク産業集積化を図る 桑生産 工場型周年養蚕 絹ﾊﾟｳﾀﾞｰ加工	**新シルク産業** 新衣料分野 衣料製品 新農業分野 健康産業分野 健康・医療製品 医療産業分野 観光産業分野
施設整備	**施設整備** 量産型養蚕詩施設・高機能絹糸開発施設等整備	**施設運営** 可能な限り、施設整備・設備等の充実化を図る	
大学連携	京都工芸繊維大学との協定締結済 大学連携により実施 信州大学繊維学部との協定締結		
支援施策・経費	**セミナー開催** 研究会等組織参加者および新規参入を得るため、ノウハウ提供を行うため開催 （工繊大・信州大との連携により実施） **支援制度の創設・運用** シルク産業育成を図るため支援制度を創設・実施		

国の支援を得る（5か年）